

会越国境 常浪川ムサ沢

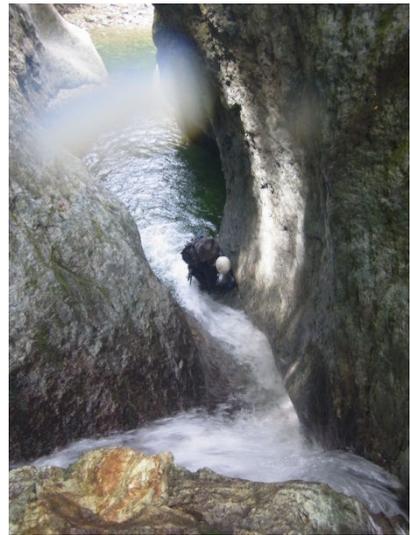
大田原

【日時】 2012年8月25日(土)～26日(日)

【メンバー】 L栗原、棚橋、大田原

何年越しか、ムサ沢。栗原さんに「行こうよ！」と言っていたが、天気や私の休みの都合が合う時まで待ってもらっていたが、棚橋さんを加えた今年、ようやく遡行することができた。

下山口となるセト沢林道に車を止め、呼んでおいたタクシーに乗り込む。これでもう戻れない^^;)。打出沢の林道を歩くと、ほどなく橋のかかる分かりやすいムサ沢出合いに着く。釣り師のものと思われる踏み跡から容易に入渓すると、水量の少ない穏やかな川原から遡行が始まる。単調な川原を進むこと1時間、そろそろ休憩しようと話した途端、



【水線沿いに進む】

棚橋さんがザックを投げ出し、地面に這いつくばって苦しみだした。突然のことに栗原さんも私も驚き、ただただ見守りながら待った。1時間以上経っただろうか、棚橋さんに様子を尋ねると、何とか遡行は続けられそうとのこと。何かについたのかもとのことだが、本人の判断に任せ、先に進むことにした。ゴルジュ地形になると滝場が始まる。棚橋さんの足取りは問題さそうで、へつれないところは積極的に浸かって泳いで登る。釜から上がるのが大変な6m



【高巻いた20m滝】

滝は棚橋さんがスカイフックを取り出し越えていく。泳いだ先にかかる10m(もないか?)滝は右のクラックが登れそうだったので、空身でロープを引く。直後の滝は水流もろ浴びを耐えれば左から容易。本流が右にぐいっと曲がる場所にある20m滝は巻くしかない。左岸から高巻く。3mほどの滝は流れが岩を穿ち、出口のない釜を形成している。その後には12m滝。これは高巻きかと思われたが、栗原さんが左壁を斜上するラインにロープを引いてくれた。引いてくれたはいいものの、私は絶対フォローできない。これってVIくらいあるのかな。もっとかも。5.11クライマーのライン取りは、まず沢登りでは登らないようなラインである。

ランニングの回収を棚橋さんに任せ、ラストの私は水流沿いからゴボウを交え越えた。当然全員空身である…。右岸から6mほどの滝をかけて枝沢が出会うと、左岸側に絶好のテン場が。時間はやや早い、よい場所はここしかなかろう、ということで幕場決定！



【クライマー 栗原さん】

お二人に寝床作成を任せ、私は大好きな焚火の準備に勤しんだ。薪は豊富で乾いているので、盛大にファイヤーできた。宵には少々雨が降ったが、15cmくらいの増水で済み、宴は続行された。夜は非常に暖かく、私はとてもツェルトに入っていられなくて焚火の脇で寝た。

翌日も晴れ。まだ核心部を抜けているわけではないので、早めに出発する。すぐにムサ沢最大の30m滝が登場する。下部が被っているが、右壁のバンドから水流の方へトラバースできれば上部は傾斜が緩そうである。さっそく右の草付からバンドを探る。うまいことバンドがつながっており、念のためロープを出したが、容易に登っていくことができた。

このころからナメ床が多くなり、ヒタヒタと癒される。流水溝のような流れを突っ張ったり、浸かるところもまだ出てくるが、いずれも容易。ただ一か所だけ、CS3mのみスタンスがツルツルのためショルダーで越えた。ナメと小滝を繰り返して進むと、二俣である。ここは両

門の滝になっている。滑る左俣10mを灌木頼りに越え、ナメ滝でグイグイと高度を上げると、左岸に支流が出会う。直接御神楽岳に突き上げることに拘る(?)我々は右を選択。が、結果的には左がよかったか。すぐに沢型がなくなり、藪に突入…。1時間も格闘したのだろうか。人の声が聞こえたら、そこはドンピシャで御神楽岳山頂だった。



【グレード】3級

【行程】

8/25 打出沢林道250m地点(7:25)～打出橋(7:50)～ムサ沢出合い(7:55/8:10)～389m付近(8:55/10:40)～テン場650m付近(15:00)

8/26 テン場(6:00)～二俣(7:50)～御神楽岳(10:35/11:00)～セト沢林道(12:50)

【地図】御神楽岳

